

平成 2 4 年度 横浜市立みたけ台小学校学校評価報告書

共通取組		取組目標	自己評価結果	改善策
児童 育成	人間 形成	<p>学習の基盤的能力を身につけ、夢や目標に向けて努力を続ける子を育てます。(知)</p> <p>友だちのよさを認め合い、かけがえのない存在として尊重し行動できる子を育てます。(徳)</p> <p>自分や他者の生命を尊び、自らも健康な心と体をつくろうとする子を育てます。(体)</p> <p>体験・交流活動を通して、地域とかかわり貢献しようとする子を育てます。(公)</p> <p>広く社会や世界を見渡し、様々な人と進んで交流しようとする子を育てます。(開)</p>	<p>・児童の健康管理の実態を分析把握し、体づくりプロジェクトを中心に体づくりに関する学校学年学級での取り組みをすることができた。</p> <p>・児童間のトラブルの防止に向けての取組をしたが、次年度の課題である。</p> <p>・特別支援コーディネーターを中心とした校内研修の実施等、特別支援教育推進のための校内支援体制を確立して、関係機関との連携を図りながら実践できた。</p>	<p>・教育相談を定期的を実施する機会を増やし、相談活動の充実させることによって、知徳体公開の取組目標に対し、一人ひとりがかかえる課題に対し、教職員が共に考える機会としたい。</p> <p>・体験・交流活動を通しての地域とかかわりの機会を充実発展させたい。</p> <p>・道徳教育の授業力向上を目指した授業研究や研修を行い、授業改善に取り組みたい。</p>
		<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>「知」「公」「開」は特色ある教育が実践されているので、「体」に重点をあてたことに賛成。</p>		
	学力 形成	<p>取組目標</p> <p>「横浜市学力・学習状況調査」結果と、子どもの意識や生活環境などの調査結果を基に、学習実態をより客観的に把握できるように「みたけ台小学校学力向上プロジェクト」を構築します。</p> <p>子どもの学習実態に基づいた独自の特色ある「学力向上アクションプラン」を作成し、学力向上のPDCAを機能させ、教師の授業改善、子どもの学力向上に取り組みます。</p>	<p>自己評価結果</p> <p>・「横浜市学力・学習状況調査」の結果を分析し、「みたけ台小学校学力向上プロジェクト」を構築し、子どもの学習実態に基づいた独自の特色ある「学力向上アクションプラン」を作成した。</p> <p>・子どもの学力向上の第一歩として読書活動の充実から取り組み始めたが、十分な時間設定ができず課題が残った。</p>	<p>改善策</p> <p>・学力向上推進委員会の機能をさらに発展させたい。</p> <p>・読書活動の充実のための時間設定（朝の時間をモジュールとして授業時数にカウントして定着を図る）を検討し4月から実施する。</p> <p>・基礎基本の定着のために、ICT学習スタンダードの実践を推進していきたい。</p>
<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>読書活動の推進が学力向上につながることに同感するので、図書室の有効活用に期待したい。</p>				
小 中 一 貫		<p>取組目標</p> <p>小中一貫教育推進委員を選定し、毎月一度の推進会議の開催を通して計画的に協議を重ね、研究会や児童・教職員の授業参観研修会を年間3回実施し、ブロック内の課題を把握しながら、小中一貫教育を推進します。</p>	<p>自己評価結果</p> <p>・三校による小中一貫教育推進会議を年間を通して定期的開催し、「学力観」「指導観」等の共有化を図る為に、6月11月2月に授業公開や教科別研究会を実施した。</p> <p>・義務教育9年間のなめらかな接続を目指し、ブロック内の6年生が中学校授業参観や合唱交流、部活動体験を実施できた。</p>	<p>改善策</p> <p>・小中交流日の中学校授業参観の形式や部活動体験・合唱交流の形式に課題が残り、今後検討してより良い交流にしていきたい。</p>
		<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>ブロック内の交流がとても定着しており、小中一貫教育の成果に期待したい。</p>		

共通取組	取組目標	自己評価結果	改善策
校内 人材 育成	<p>初任研、二・三年次研、五・十年次研を充実させ、諸研修を年間計画に位置づけ、各主幹教諭を中心にきめ細かな指導を継続します。</p> <p>特別活動、児童指導、授業など多方面の必要な研修を計画し指導力の向上を図り、人材育成に努めます。</p>	<p>・諸研修を年間計画に位置づけ、各主幹教諭が担当し、きめ細かな指導ができた。</p> <p>・学年研、重点研を通して学習形態や指導法を工夫し、わかる授業の工夫や授業改善を概ね実践できた。</p> <p>・人材育成推進委員会を立ち上げ、定期的に組織として指導力向上を図れた。</p>	<p>・研究・研修体制は図れているが、十分な時間確保に向け月行事設定を工夫します。</p> <p>・人材育成のメンタ-チ-ムを継続し、組織として指導力向上を図りたい。</p>
<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>若い先生が増えてくるので人材育成が急務と思われる。なかなか時間がとれないと思うが育ててあげて欲しい。</p>			

重点取組	取組目標	自己評価結果	改善策
10 教育環境の 整備	<p>施設・設備の安全維持管理の為に老朽化した危険箇所の改善に取り組みます。</p> <p>児童数の減少に伴う、余裕教室の有効活用を図り、図書室の確保やトイレの全面洋式化の施設改善申請を継続し、早期実現を目指して計画的に取り組みます。</p>	<p>・定期的な安全点検を実施し、維持管理や必要な改善に努めている。</p> <p>・図書室の復帰ができ、保護者の図書整備ボランティアが蔵書の整理整頓や修理、バ-コードシ-ル貼り付けなどを支援いただき、図書室を開館することができた。</p> <p>・トイレの全面洋式化の施設改善ができ、老朽化した危険箇所の改善を計画的に実施することができている。</p>	<p>・エアコン設置工事が後半予定されたので、工事期間中の様々な教育計画を変更せざるを得なかった。</p> <p>・図書室が開館できたので、蔵書の充実や図書館教育、読書活動の活性化などを推進したい。</p> <p>・学年の学級数を考慮してよりよい校舎利用を目指して教室配置を工夫したい。</p>
<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>長年の申請である図書室復帰やトイレの全面洋式化、プレハブ撤去などの工事が実施されて良かった。</p>			

重点取組	取組目標	自己評価結果	改善策
3 児童指導	<p>児童指導専任教諭を配置し、児童指導にかかわる課題を組織的に取り組み、担当教諭を中心とした全職員の連携協力、早期発見・早期対応、温かい人間関係づくりに努め、児童指導や児童理解力を高めています。</p>	<p>・児童指導に関する校内の情報交換、研修・研究会を通して情報の共有化を図りながら児童支援専任を中心として組織的に取り組めた。</p> <p>・相談活動の充実に関しては、児童保護者を十分満足させられなかった評価になってしまった。</p>	<p>・教育相談を定期的を実施する機会を増やし、自分から相談しにくい児童にも配慮し、教職員の方から進んで声をかけ、相談活動の充実させます。</p>
<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>低学年の課題を抱える児童の指導の大変さが良くわかった。教職員数の増加が必要と思われる。教職員の方から進んで声をかけて相談活動を充実させて欲しい。</p>			

重点取組	取組目標	自己評価結果	改善策
1 学習 指導	<p>子どもの意識や生活環境、学習実態などの調査結果を基に独自の特色ある「学力向上アクションプラン」を実践し、授業改善、子どもの学力向上に取り組みます。</p>	<p>・国語の重点研を通して、授業力の向上に努め、言語活動の活性化を図ることにより、学力の向上に取り組んだ。</p> <p>・本校のICT学習スタンダ-ドの授業実践を開始し系統的な指導を始めた。</p> <p>・学力向上に向けて基礎基本の定着を目指した工夫をした。</p>	<p>・外国語活動(eタイム)を担当、AET、サポ-タ-と連携しながらさらに充実させたい。</p> <p>・様々な教科等の場面で言語活動が活発になるように指導計画を見直したい。</p> <p>・学力向上アクションプランを見直し、具体的な取り組みによってさらなる学力向上に取り組みます。</p>
<p>【学校関係者評価委員会からの意見】</p> <p>教職員の減少の課題があるが、支援員やボランティアの導入なども考慮に入れて、校内支援体制を充実させて欲しい。</p>			

10の取組分野における評価結果

取組分野	取組目標	自己評価	改善策(案)
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 読書習慣の形成や読書活動の啓発を推進する研究実践(蔵書整備補修、図書室環境作り、読み聞かせ活動の充実、図書整備ボランティアとの連携他) 学校図書館システムの電算化を導入することにより、中学校とのネットワークの構築「新学習指導要領」にそった年間指導計画や評価・評定方法の見直しをします。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自カリキュラム(生活科、社会科、外国語活動、等)の検証ができた。 高学年の外国語活動の内容や指導の課題を改善した。 本校のICT学習スタンダ-ドの授業実践を開始し系統的な指導を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動(eタイム)を担当、AET、サポ-タ-と連携しながらさらに充実させたい。 本校ICT学習スタンダ-ドの授業実践を充実させたい。 学力向上アクションプランを見直し、具体的な取り組みによって学力向上に取り組みます。
2 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に応じて将来の生き方など、子ども自らが考えたり課題選択能力や解決能力を育てたりする指導(キャリア教育)の場を充実させます。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年のキャリア教育計画の整備が課題として残った。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳、特別活動、総合の時間等を利用し、発達段階に応じたキャリア教育計画を構築し、実践していきます。
3 児童指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援専任教諭を配置し、児童指導にかかわる課題を組織的に取り組み、担当教諭を中心とした全職員の連携協力、早期発見・早期対応、温かい人間関係づくりに努め、児童指導や児童理解力を高めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援専任教諭を配置でき、児童指導にかかわる課題を組織的に取り組みんだ。 専任教諭を中心とし全職員の連携、早期発見対応、温かい人間関係づくりに努め、児童指導や児童理解力の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の機会を増やし、自分から相談にくい児童にも配慮し、教職員の方から進んで声をかけ、相談活動の充実させたい。
4 保健管理	<ul style="list-style-type: none"> 児童の健康管理に関する実態を分析把握し、体づくりプロジェクトを中心に体づくりに関する学校学年学級での取り組みや児童の怪我の減少に努めます。 体力向上推進校として、児童の運動を親しむ機会の確保、教員の指導力向上、生活習慣や運動習慣の改善を図るなど、学校教育活動全体を通じて、発達段階に応じた適切で効果的な健康・体づくりを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教委の研究協力校「体力向上推進校」として、計画的な体づくりを推進した。 縄跳びや長縄を活用し、自発的な体づくりへの啓発ができた。 市体育大会、市区水泳大会、区球技交流会などにおいて成果を上げることができた。 日本スポーツ振興センターや横浜市安全教育振興会の医療費・見舞金制度を利用した件数は、減少しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教委の研究協力校「体力向上推進校」を継続し、計画的な体づくりをさらに発展させたい。 食育、安全教育に関してPTAとも連携し、保護者への啓発の機会を充実させたい。 縄跳びや長縄の成果を発表できる場を設定し、更に意欲的に取り組めるように計画します。
5 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルにそって、適切で迅速な対応ができるような研修訓練の機会を年間計画に位置づけます。 メ-ル配信システムを補助する連絡方法を検討して有効に活用し、保護者との緊急連絡方法の充実を図ります。 不測の事態に備え、児童引き取り等に関する現行の制度を見直します。 	<ul style="list-style-type: none"> メ-ル配信を補助するものとして掲示板を開設し、保護者との緊急連絡方法の改善を図った。 引き取り支援者登録制度を設定した。 台風接近時の児童の安全確保に関して課題が残った。 教育予算の有効活用により、老朽化した施設備品の修理修繕が計画的に実行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> メ-ル配信の配信文が簡潔かつわかりやすい文になるように留意したい。 施設・設備の老朽化した危険箇所への改善に一層取り組みたい。 台風接近時に授業を打ち切り、風雨の強まる中で下校させる可能性がある場合は、警報発令の有無にかかわらず休校とする方向で考えていきます。
6 特別支援	<ul style="list-style-type: none"> 校内委員会の設置、特別支援コーディネーターを中心とした校内研修の実施等、特別支援教育推進のための校内支援体制を関係機関との連携を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心とした校内研修の実施等、特別支援教育推進のための校内支援体制を確立し、関係機関との連携を図りながら実践できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育推進のために、校内支援体制を工夫し更に充実発展させます。 関係機関との定期的な連携を図り、更に発展させたい。

取組分野	取組目標	自己評価	改善策(案)
7 組織運営	・教職員がその個性や能力を最大限に発揮することができる場を設け、互いに教え学び合い、組織としてのチ-ム力を発揮できる校内組織編制を図ります。	・教職員がその個性や能力を最大限に発揮することができる場を設け、互いに教え学び合い、組織としてのチ-ム力を発揮できる校内組織の編制ができた。	・職員数の減少に伴い、これまでの運営組織や校務分掌を検証します。
8 研究研修	・学校全体で、授業力向上を目指した授業研究や研修を年間計画に位置付けるとともに、日常的に授業改善に取り組みます。 ・人材育成推進委員会を設置し校内研修を充実させ、教職員の指導力を高めます。	・国語の重点研を通して、授業力の向上に努め、言語活動の活性化を図ることにより、学力の向上に取り組んだ。 ・二・三年次研をさらに拡大し、メンタ-チ-ムによる研修を深めることができ、指導力の向上につながった。	・初任研、二・三年次研、五、十年次研等をこれまで以上に充実させ、教職員の指導力を高めます。 ・授業力向上を目指した重点研究を年間計画に位置付け、日常的に授業改善に取り組みます。
9 地域連携	・教育相談を定期的実施する機会を増やし、相談活動の充実を図ります。 ・開かれた学校づくりの視点に立ち、地域の教育力や教育ボランティアなどを活用し、学ぶ楽しさや喜びを味わうことができる授業を推進します。	・開かれた学校づくりの視点に立ち、地域の教育力や教育ボランティアなどを活用し、学ぶ楽しさや喜びを味わうことができる授業を推進できた。 ・県立中里学園交流会を学園を会場として実施できた。	・地域の教育力や教育ボランティアの活用を充実させ、児童保護者のニ-ズに合わせた授業の推進に努めたい。 ・県立中里学園に関する地域・保護者の理解深める機会を設け、さらなる連携をしていく。
10 教育環境	・教育情報機器を有効活用し、子どもたちの学習意欲が高まるような授業改善を図ります。 ・図書室の復帰に向けて、保護者の図書整備ボランティアに支援いただき、図書室を早期開館します。 ・トイレの全面洋式化工事期間のトイレ使用を工夫します。	・図書室の復帰ができ、保護者の図書整備ボランティアが蔵書の整理整頓や修理、バ-コードシ-ル貼り付けなどを支援いただき、図書室を開館することができた。 ・トイレの全面洋式化工事期間中、児童数を考慮した使用場所を工夫し、混雑や事故なく過ごせた。	・昇降口や廊下階段等の共有部分の美化を推進したい。 ・老朽化した危険箇所の改善を計画的に実施する。 ・教室エアコンの使用規定を作成し、節電や換気等に配慮しながら有効活用したい。
11 その他	・学習の中に、校外学習や体験活動をたくさん取り入れていきます。 ・人とのかかわり、交流活動も大切にし、異学年交流、地域交流、幼稚園、中学校との交流をさかんにし、豊かな人間性を育てていきます。	・人とのかかわり、交流活動を大切にし、異学年交流、地域交流、幼稚園、中学校との交流をさかんに実施した。 ・PTA活動について様々なご意見をいただいた。	・本校の教育の特色である様々な交流活動や体験活動をさらに発展充実させたい。 ・児童数学級数の減少を踏まえて、PTA活動や組織を保護者の代表と検証したい。

【学校関係者評価委員会からの意見】

- ・学校評価年間計画をしっかりと立てて、アンケート集計結果を良く分析し、学校だより、学校説明会、HPなどで積極的に公開し、それをもとに自己評価をしていることが伝わってくる。
- ・数値目標を設定し、達成度の観点から課題の改善策を検討していることも良い。
- ・特別支援教育推進のために、教職員の増加要請以外にもサポ-タ-を活用する方法もあるのではないかと。
- ・外国語活動の授業を見ると、子どもたちは大変楽しそうに学習していた。楽しい活動を維持して欲しい。
- ・図書室が復帰できたので、今後は蔵書の充実を期待している。

